
鬼ごっこをしよう!?

咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼ごっこをしようつ！？

【Zコード】

Z6717A

【作者名】

咲

【あらすじ】

ちょっと聞いてよ…私ね…次赤点とつたらさ…携帯止められるんだって…ありえないよねッ！？怒好きなさいとに行く事も彼氏とメールする事もできないんだよ！？…彼氏いないけどね。そんなテスト期間中…私に悲劇が舞い降りた…！！もお…！…まちありえない！怒

プロローグ

私立八秘学園。初等部、中等部、高等部と続くエスカレーター式の学校。

『八秘』の、秘は『秘密』の秘。

この学園の創立者が死ぬ時に8つの秘密を残した為にこの名前がついたのだという。

この学園に8つ全ての秘密を知るものはいない…。

ハッピーアイスクリームとか懐しきね??

高校生になつて4回目の中間定期テスト。

前回、数学と英語と地理が赤点だつた。一年の最後だから少し気を抜きすぎた。

…しかし今はやばい…！

私の命とも言える携帯を止められてしまつ…。それだけは避けなくてはならない…！

だから私はこんなに勉強していると言つの…！…！…！

「ねー？麗「ひらひら」ちゃんつばあー？ねーねー聞いてるー？」

「…なあに…？」

忙しいと言つてるそばから、燕「つばめ」が話しかけてくる。「今、ひまあ？」

「あのねえ…見りやわかるでしょ…！私は忙しいの…！勉強中なの…！…わかるつ！？」

「えー、いいじゃんー？ねー、ひまあ？」

「だから…」

とりあえず一発なぐつちゃうかと思つた所に、後ろから由亜が来て、数学のノートでペコッと燕を叩いた。

「ほら燕。麗は勉強中なんだから、邪魔しないの。」

「だつてえー」

「トイレでも行きたいの？私がついてつてあげるから…。」

ちょっとバカにしつつ由亜が燕に聞いた。

「違うよつ…！…鬼！」つこがしたいの…！

「…ハア？」

由亜とハモつてしまつた。ハッピーアイスクリーム。アイスおじつてね。

「あんた、なにいつてんの？今、テスト前だよ！？」

「だつてやりたいんだもん！！ちなみにうちがやりたいのはフツーの鬼ごっこー色鬼とか高鬼じゃないやつ」

「私的には…色鬼が好き…。…つてちがくて…ほんと何回も言つけど、今テスト前！－ホンゴワカル？ビーセだつたらいつも10位以内に入つてる雪花とか誘つて来なさいよ…」

「わかつたあ…雪花ちゃんと綾音ちゃん誘つてくるよ。綾音ちゃん頭いいよね？麗ちゃん誘つたうちは麗ちゃんよりおバカさんだあ…まちで殴つてやろうかと思つた。しかし、こいつの場合天然だから殴れない……。

ぴょんぴょん嬉しそうに飛び跳ねてつたハズの燕は、トボトボと雪花達の所から戻つてきた。

「どうだつたの？」

「うー、綾音ちゃんはそんな子供の遊びには付き合えないってH。雪花ちゃんは頭いいのに…勉強するから…。だつて…」

「そりや、そうでしょ。テスト前に鬼ごっこやる奴なんて頭おかしいわよ。」

フフンと由亜が鼻で笑つた。

「そーそーあんたも静かに勉強してなさい。」

「ふうー…わかつたよー…」

しかしその1分後に入るアナウンスの内容を誰も知るよしもなかつた……。

悪いけど……おれが勘弁して下せー。

ピンポンパンポン

(校内アナウンス?)

『お、お知らせ…です』

(声が震える?)

『ただ今より…。』

(ただ今より…?)

『全校生徒絶対参加の…』 (はあー? 避難訓練かなんか? 勉強でき
ないじやん。)

『鬼ごっこを開始しますーー。』

(は?)

…………?

「はあ

!?

全校生徒が一斉に驚きの声。

…いや違う。一人だけ違う…。私の隣で目を輝かしてる奴がいるつ
!!

『お静かにお願いします…。これよりルール説明を致します。ルー
ルは簡単。午後12時きつかりに、3人の鬼を離します。鬼の目印
は1つ。背中に大きな鎌をショッっています。時間制限はなく最後ま
で鬼に捕まらなかつた方が勝者となります。』

今度は学校中シーンと静まり返つた。

みんな意味がわからなすぎて、ポカーンとなつてているようだ。

「ちよつとフザケないでよ! ? なんでテスト前に全校参加の鬼ごっこ
このよー?」

「わーい! …やつたあ! !」

「あーもづー! …ちょい燕黙りなさい! ? これで赤点とつたらビーす
んのよ! ! 私の携帯ビーなるのー?」

半分もう泣きそうな目で訴えてみたが放送室まで届くわけがない。

「家に帰ればいいんじゃない?」

由亜が静かに言つ。

「あ、そっか」

なんだコレで勉強できるじゃんと安心した所にまたアナウンスがはいつた。

『こちら放送室では、捕まつた方の名前を発表していきます。ちなみにこの鬼』『』はみなさまのやる気を出す為にあるものを賭けてあります。』

(…あるもの?)

『成績です。』

(…は?)

「はあ

!?

またまた全校生徒驚きの声。

『最初の方に捕まつた方の失点は大きく、最後の方まで残つた方は失点が少なくなつております。』

(リ、リタイアの道もふさがれた…。)

どうやつたら最後までその『鬼』『』とやらで捕まらないか考えていると、由亜が口を開いた。

「麗…。」

「ん? なに?」

「こには協力しましょ。」

「う、うん」

珍しく由亜がやる氣になつたのを見た。

「ふう」

と一息、深呼吸をするとくるつと振り返つて由亜はいつもどつつのハキハキした口調で言つた。

『雪花! 紗音! 燕! あんたらもよー。』『』はグループで行動する方が有利よ!…。』

うんうん。一人だと怖いし。鎌持つて追いかけられるのは誰だつて

怖い……。

「あと……雨月！あなたも来て！」

「え？ うちも？」

「そうよー陸上部エースのあんたなら鬼から逃げ切れる！ ガンバレ！」

（あー… オトリつて事…？）

雨月は、由亜に利用されようとしているを知らずに、上機嫌で答えた。

「そうだね！ 私エースだもんね！ ガンバル！」

「そうよー！ がんばって！」

… 悪魔の女、笠木由亜。 こいつには絶対逆らえない。

11時45分。

スタートマーティン。

私達6人は、私達の教室2-Bのクラスがある、1号館から2号館にある音楽室に向かおうと、渡り廊下をパタパタと走っていた。あれからまたアナウンスで鬼のスタート位置が発表された。

1の鬼は2号館の理科室から。

2の鬼は校庭の真ん中から。

3の鬼は1号館の3-Bの教室から。 という事だった。
私達が音楽室についた時、時刻は11時54分。

2号館にはあまり生徒がいなかつた。

「ねえ、こんな鬼のいる2号館なんかにいていいの？ しかもこんなはじつ！」…。

「はあ……」

由亜はわざとつぼく大きな溜め息をついた。

「だから麗はバカなのよ…。」

カチンときたが、由亜相手では言い返す事もできない。

そして由里はペリッと右手のひとさし指で私の後ろをさした。

「？」

ふりかえるとそこには、分厚い防火扉があった。

「…もしかして…？」

「…そう！「レを開めて鬼をこさせなくするのよ」

今度は左手でパチンと指をならした。すると優等生代表の雪花が

重たい音と共に、防火扉を閉めた。

「完了です。」

そして時刻は12時となつた。

私の長い長い「？」戦い「！？」が始まつた……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6717a/>

鬼ごっこをしよう!?

2010年10月30日23時23分発行